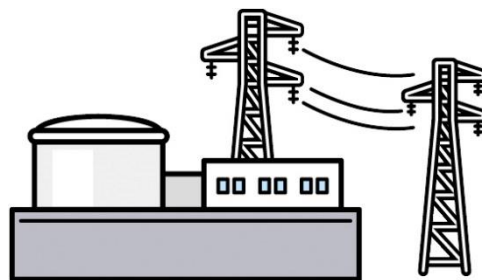




「見て 聞いて 知って 考えてほしい」

～校長先生・朝礼講話より～

先週、日本が「化石賞」を受賞したお話をしましたが、今日はその続きです。新聞やテレビで見たり聞いたりしているかも知れませんが、COP25（第25回国連気候変動枠組み条約締約国会議）期間中に、日本が2回目の「化石賞」受賞という不名誉なことがありました。授賞の理由は、小泉環境相が演説の中で、脱石炭などの意欲的な姿勢を示さなかったという理由です（中日新聞 12/12 夕刊）。その前（中日新聞 12/10 夕刊）に、発展途上国の石炭火力発電建設に対する国際援助を日本は今後も続ける方針であるという日本政府関係者の話が掲載されていました。これに対して、国際協力機構（JICA）や国際協力銀行（JBIC）も「これまでも政府の方針に沿う形で援助をしてきた。今後も同じです。」とコメントしています。一方、欧州ではイギリスやフランス、ドイツなどの主要国が将来の石炭火力発電を全廃する方針を打ち出し「脱石炭」が国際的な流れになりつつあります。



では、何が正しいのか。世界では、石炭火力発電禁止が当たり前。温室効果ガスといえばCO₂と思われがちですが、他に、メタン、一酸化二窒素、フロンなどいろいろあります。また、「CO₂は地球温暖化の原因ではない」と唱える学者もいます。



小泉環境相は、どんな演説をしたかを少し紹介します。演説前の取材では、CO₂の排出が多い石炭火力発電を推進する日本への風当たりが強まっていることに関し、「厳しい批判もあると思うが、誠実に丁寧に説明する」と述べていました。演説では、国際批判の強い石炭火力発電の廃止など脱炭素に向けた具体策には踏み込まず、現状の温暖化ガス削減目標の上積みも見送ったこと、日本の石炭火力に関する政策に変更がないことに言及しました。一方、日本は5年連続で温暖化ガスの排出量を削減してきたと実績をアピールし、「こうした日本の行動が石炭政策への批判によってかき消され、評価されない。これを変えたいと思いマドリードにきた。」と述べました。（中日新聞 12/12 夕刊）

皆さんは、この演説についてどう思いますか。先生は、今、日本の現状を伝えることが大切だと思い、この話題を話しました。いろいろなことを見て、聞いて、知って、それぞれが自分で考えてほしいと思います。

～お詫び申し上げます～

11月25日の給食で出されたみそ汁の中に小さなねじが混入していました。当日、給食が始まって間もなく味噌汁の中にねじが混入していることを、食べる前に生徒が発見しました。すぐに全校生徒に対し、「みそ汁の中に異物がみつかったので、食べないようにしてください。気になるものが入っていた人は知らせてください。また、すでに口をつけてしまった人で、この後、家に帰ってからも体調に変化があった場合は学校へ連絡をするようにしてください」と指示を出しました。そして、学校の独断で保護者の皆様へメールや文書等で通知は出しませんでした。しかし、情報をきちんと伝えてなかったことにより、生徒や他の保護者から伝え聞いた保護者の方や、この件を初めて知った保護者の方に対し、大きな不安を与えること、信頼を裏切ることになってしまいました。誠に申し訳ありませんでした。弥富市教育委員会からも指導を受け、今後は、小さな出来事に関しても、生徒の口から保護者に伝える方法だけでなく、文書やメール等、より確実に公平に保護者の皆様に情報を発信していきます。